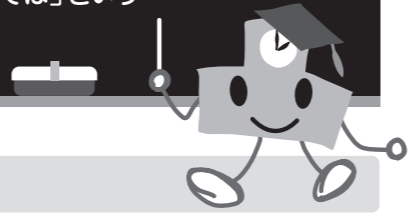


小学校の事例 豊平区 羊丘小学校

地域住民と花を植え、ごみ拾い。多彩な活動から環境への意識を育てる。

様々な花植え事業に参加。協力いただく地域住民へは感謝を忘れず手作りのお礼状を送付。交流からやさしい思いやりの心を体得し、「自分が動かなくては」という気付きが生まれる取組。



はじめに 地域との交流を深める花植え活動

本校では、花植えに関わる取組に参加し、全校で地域を明るくする活動を行っている。北海道農業研究センターとの交流や「ふれあい栽培活動」は平成元年頃から。その後、平成17年からは地域の「マイフラワー・マイタウン」事業、「とよひら花ランド」事業などに参加している。

こういった土台を生かし、さらに地域との交流を深め、地域づくりに関わってほしいとの思いから、平成22年度、人権擁護委員会が進める「人権の花運動」に参加することとなった。

「人権の花運動」では、配布された花の苗を、児童が協力しながら育成することをとおして、協力、感謝することの大切さを学ぶとともに、情操を豊かにし、

やさしい思いやりの心を体得させ、人権思想を育むことを目的としている。加えて本校では、地域づくりや地域環境についての指導をあわせて行っている。



花いっぱい運動

内容 「人権の花」を学校の花壇に植栽

「花いっぱい運動」では、通学路に400～500メートル続く街路マスの花壇と学校内の花壇で行っている。地域住民約20名の協力で土おこしと施肥を予め行い、5月に6年生の児童が、種まき・苗植えを行った。当日は地域の皆様、老人福祉施設「アルメリア」の皆様、人権擁護委員会、まちづくりセンターの皆様、保護者など、総勢約50名が来校し、共に活動にあたった。

苗は、人権擁護委員会から提示された予算から肥料とともに250株、「とよひら花ランド」から300株、地域の町内会から200株が集まり、合わせて750株。

種類は主にマリーゴールドやペチュニアといった一年草だが、人権擁護委員会からいただいた苗は「人権の花」という特別な意味を考え、長く大切にできるように、多年草であるラベンダーを玄関前に植栽した。協力いただいた皆様には、後日、子供たちから名前入りの礼状を書いて送付した。

本校では植栽の他、清掃活動にも取り組んでいる。年間のスケジュールを組み、校地の清掃、街路マスの花壇の雑草とり、また遠足先の公園でのごみ拾いなどを実施している。

効果 「気付き」を経て 美化から環境へ

10月に「花いっぱい運動」のまとめとして、地域の皆様にもお越しいただき、ポスターセッション形式で成果や今後の課題について発表する機会をもうけた。「花いっぱい運動」で地域と関わることで生まれた新たな気付きもたくさん発表された。児童からは「花を大切にしていこうと本当に思った」「意外とごみが多く、タバコの吸い殻の次に菓子袋が多く反省した」「自分たちが動かなきゃ!と思うようになった」という感想があったほか、「木や花、落ちているごみに目が向くようになった」「新しいものをできるだけ使わず、紙や画用紙なども大切に使うようになった。捨てることが減った」などの感想があり、美化から環境へとつながる意識も育まれている。

また、この活動をとおり、今まで言葉を交わすどころかあいさつを交わすことさえもなかった地域の人との交流が広がり、「知らない人」が「知っている人」となり、地域との関係が深くなった、という嬉しい効果も実感している。



花の植栽の様子

今後 ごみ減量や節電など 様々な取組を意識

ごみ拾いの後、「札幌市のごみに対する取組ってどうなっているんだろう?」という学習をさらに発展させ、総合的な学習の時間に6年生が「モエレ沼の冷房システム」や「二酸化炭素量」など各自の課題について調べ、学習している。広報さっぽろやインターネットで調べるだけでなく、環境プラザやリサイクルプラザに出かけて情報収集。今後、冬休みの自由研究や、3学期での展開が期待できる。

また、各クラスごとに生活科や総合的な学習の時間の学びを発表する学校内でのイベント「羊っこ広場」では、6年生がごみ問題を取り上げてクイズを出したり、ごみの分別競争を行った。

委員会の活動でも、「自分たちに何かできないか」

という意識をもち、目標をもったリングブル・ペットボトルキャップの収集活動などが盛んに行われている。今後は個別の行動の背景としての「環境への意識」に結びつけていくような指導をめざしていきたい。



地域の方へ活動の発表をしているところ

広げよう
つなげよう
環境学習の輪



実施校から
メッセージ

植栽による地域との交流では、「知らない人」が「知っている人」に変わり、あいさつを交わすことさえもなかった人と会話ができる、交流が深まる、という大きな効果がありました。

目に見えて、自発的にできること、そして継続できることが理想の「環境教育」だと思います。そして、子供たちが「やらされている」のではなく、「やりたい!」と思えるように、教員の側から働きかけることも必要だと感じています。素直な気持ちのまま子供たちが変わり成長できるように、働きかけていきたいです。